

＝ 秋空 ＝

見上げれば青く高い高い空にうろこ雲、秋の気配が日に日に増す今日この頃。いわし雲は雨の前触れ、そんな話をしていた幼い頃が懐かしい。

ところが、9月下旬、出身単組の定期大会を終え、東京に向かう飛行機の中から見下ろす地上は、天地が逆さまになったような光景であった。「まもなく羽田空港に向けて最終の着陸態勢に入ります。」とのアナウンスのタイミング、千葉県上空である。地上にはブルーシートがあちらこちらに、そして多分黒っぽい瓦があったであろう屋根は跡形もなく、まるで白い小さな雲のような屋根裏がのぞいていた。鋸南町、南房総市、館山市など千葉県南部を中心とする台風15号の爪痕である。連日流れるテレビの画面からもその惨状はうかがえるが、屋根は剥がれ、雨風が吹き込む中で電気もつかず水もなく、暑さに耐えながら、被災された皆さんがどんな気持ちで真っ暗な夜を過ごされたかと思うと胸が痛むばかりであった。

東日本大震災以降、地震、豪雨、台風の発生とその規模は、かつて経験したことのないものとなっている。そして、それは、いつ、どこで起きるかもわからない。平成30年西日本豪雨発生直後、甚大な被害を被った岡山の真備町を訪れた折、目にしたのは氾濫した川の反対側は何ら被害はなし、まさに「道路を隔てた一歩先は被災地」だったのである。数多の地震、先に触れた西日本豪雨、直近の佐賀県を中心とした九州北部豪雨、そして今回の千葉、私たちは、どう備えをし、わが身・わが家族、仲間の命と財産を守れるのか、ひとごとではなく誰しもが自らのこととして考えなければならない。

国、地方自治体による法整備や河川の整備など、物理的な課題対応に加え、私たち自身が防災意識を高めること、そして地域ぐるみでお年寄りや体の不自由な人に常日頃から声をかけ、避難を促す行動をとることが求められる。以前、皆さんに紹介した「起こすな人災、備えよ天災」なのである。

今回の災害では、基幹労連千葉県本部の要請を受け、JBUパワーバンクが9月21日から近隣各都県の協力を得て出動した。メンバーの想いは一つ、被災された皆さんの辛い気持ちを自らのこととして、少しでも出来ることから手を差し伸べたい。休みを返上し、あるいは年休を取り参加してくれたパワーバンクメンバーに心からの感謝と敬意を表したい。そして、いち早く行動を起こすことができたのは、定期的実施している基本教育・訓練によるメンバーの熱い思いが成せるものである。近年発生した自然災害による多くの被災地域では、未だ復旧もままならぬところもあるなかで、真備町の坪田町内会の皆さんから感謝状をいただくという。他のボランティア団体と比較すれば、小さな小さな手助けかもしれないが、住民の皆さんの思いをいただき、取り組みの糧と誇りになることは間違いない。おばあちゃん、おじいちゃん、子供たちの笑顔を忘れず、これからもJBUパワーバンクは日頃の研鑽に励むであろうし、互いに手を差し伸べる、アウトリーチの思いを労働運動にも生かしてくれるであろう。

被災地の復旧と合わせ、被災された皆さんの心が折れることのないようにアフターケアも忘れてはならない。高い高い青空のもと、秋風に揺れるコスモスを心安らかに見つめられる穏やかな日が来ますように。

ご安全に

2019年10月1日

日本基幹産業労働組合連合会
中央執行委員長 神田 健一